

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス いろは第一単位		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ~ 令和7年 11月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ~ 令和7年 11月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●プログラム内容の充実 土曜日、長期休暇は外出する機会を設けている。また、季節を味わえる活動やイベント、作業活動に力を入れている。	就労に向けて公共交通機関を活用して外出を行ったり、「蓋開けや棒を袋に入れる」等の手先を使ったりする活動を取り入れている。 ただ行うだけでなく、ゲーム感覚で行うことでマンネリ化を防いだり楽しみながら“できること”を増やしていけるようにしている。	お子様の成長を感じた時や新たな一面を発見した時等は親御様へ共有し、関係機関での活動や就労移行へ繋げていく。 外出先の幅を広げていく。
2	●活気のある、明るい環境 いつも笑顔で明るい声やプラスな声掛けが飛び交うことで、職員もお子様も楽しく元気に過ごせる環境。	些細な出来事や頑張ったことを見逃さず、褒めたり認めたりすることで明るく前向きに進もうとする気持ちを高められるよう努めている。 また、職員同士で共有することにより職員もお子様も笑顔で過ごせるよう環境を整えている。	どんな時でも職員が明るく笑顔でい続ける意識を持つ。また、お子様が立ち止まった時は職員がやってみたり巻き込んだりして活気のある雰囲気を作っていく。
3	●幅広い年齢層のお子様同士の関わり 小学校5年生～高校3年生までのお子様と一緒に活動をしている。	年齢の異なる他児と過ごすことで高学年は見本となったり低学年は見て習得したりして他児との関わりを大切にしている。 卒業後の姿を身近で感じられる機会を提供している。	他者と幅広く関わりが持てるよう、他事業所や地域の方と関われる機会を増やしていく。また、他事業所と共同で行える活動を実施していく。
4	●相談等がしやすい環境 保護者交流会や参観を開催することで何気ない事でも相談しやすい環境作りを心がけている。また、送迎時等でもお子様の様子をお伝えしたり保護者様との関わりを大切にしている。	毎年行っている保護者交流会や参観では、保護者様アンケートをもとにニーズを伺ったり、今後の保護者参観の内容に取り入れている。	引き続き、親御様のニーズや悩みに対して職員間で共有していく。必要に応じて会議や都度話し合いを行い、親御様に助言をしたり支援をしたりして寄り添えるよう努めていく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●個々に合わせた集団活動プログラムの提供	お子様の年齢や日常生活スキルの幅が広い為、個々に合わせた集団活動プログラム内容の設定が難しい。	各職員が個々の日常スキルや課題、強み等を把握し同じ活動の中でも参加方法を工夫していく。年齢層や日常生活スキルに応じた活動の提供を考慮していく。
2	●階段や段差がある	建物の構造上、どうしても階段や段差は否めない。歩行に補助が必要なお子様は危険が生じる可能性がある。	段差や階段を歩行する際は必ず職員が付き添う。 また、リフォームやDIY等で改善できる所は可能な限り、改善していく。
3	●活動スペースの狭さ	法令に遵守したスペースが確保されているが、体の大きなお子様が利用されている為、活動スペースが狭くなっている。	机の配置換えや、公園や施設内のロータリーを活用し、活動スペースを確保していく。